

## 上告事件の判決について

### 1 事件名

損害賠償請求上告事件

### 2 当事者

上告人 中野区民

被上告人 中野区

### 3 訴訟の経過

令和7年(2025年)2月13日 東京簡易裁判所に訴えの提起

21日 訴状送達

6月13日 東京簡易裁判所で棄却判決の言渡し

7月1日 東京地方裁判所に控訴の提起

9月5日 控訴状送達

12月18日 東京地方裁判所で棄却判決の言渡し

23日 東京高等裁判所に上告の提起

令和8年(2026年)1月6日 上告状送達

3月31日 東京高等裁判所で棄却判決の言渡し

### 4 事案の概要

本件は、上告人が、介護保険に加入申込みをしていないにもかかわらず、被上告人が上告人の年金から介護保険料を徴収したと主張し、被上告人に対し、10万4,998円の支払を求めたものである。

上告人は、第1審の判決では被上告人は損害賠償義務及び不当利得返還義務を負わないとして上告人の請求が棄却され、第2審の判決では控訴が棄却されたため、これを不服とし、東京高等裁判所に上告の提起をしたものである。

### 5 上告の趣旨

原判決を破棄し、更に相当の裁判を求める。

### 6 判決

#### (1) 主文

ア 本件上告を棄却する。

イ 上告費用は、上告人の負担とする。

(2) 判決理由の要旨

所論の点に関する原審の認定判断は、原判決挙示の証拠関係に照らし、正当として是認することができる。原判決に所論の違法はなく、論旨は、違憲をいう点を含め、採用することができない。

※ 参考

(1) 第1審判決の理由の要旨

原告は65歳に達した日に介護保険の被保険者となって、保険料の納付義務が発生し、法令の規定に従い原告の老齢基礎年金支給額から天引きの方法で徴収されたことが認められる。そうすると、被告は、債務不履行又は不法行為による損害賠償義務を負わないし、不当利得返還義務も負わない。

(2) 第2審判決の理由の要旨

控訴人の主張を可能な限り善解すると、介護保険について、民間事業者が提供する保険商品と同じであることを前提に、控訴人の意思確認をせずに強制的に介護保険に加入させることはできないし、強制加入させることは思想及び良心の自由を保障する憲法第19条に反するから、被控訴人による介護保険料の徴収が国家賠償法上違法であると主張するものと解されるが、介護保険制度が強制加入方式を採用していることは介護保険法の趣旨、目的等から明白であり、控訴人の意思確認を要するとする控訴人の主張は介護保険制度を正解することなく独自の見解を述べるものであって失当である。また、介護保険への加入を強制することはその性質上被保険者に対し特定の思想を持つことを強制したりこれに反対する思想を持つことを禁止したりするものではなく、被保険者の思想及び良心の自由を直接又は間接に制約するものではないから、憲法第19条に違反する旨の控訴人の主張も失当である。